

第7週

質問 20. アダムを通してすべての人が墮落したのと同様に、
キリストを通してすべての人が救われるのですか。

答え I いいえ。まことの信仰によってキリストに接ぎ木された者だけが、そのすべての恩恵を受けられます。⁰¹

① この質問は、すべての人が救われるという間違った教えを矯正するためです。霊的に不注意な者たちは罪の嚴重さを分からずに、キリストの貴重さと救いの必要性も分からないまま、ただ、キリストによって救われるだろうという想像だけをします。しかし私たちが、救いを得るためには、必ず信仰によって接ぎ木されなければなりません。なぜなら、私たちは本性上、キリストの中にいないからです。生まれながらキリストの中にいるのではなく、アダムの中にいるからです。

すべての人はアダムを通して、あるいは、アダムの中で罪と定められました。罪の定めから解放される方法は、ただキリストによって救われること以外に

01 マタイ 7:14、ヨハネ 1:12、3:16、18、36、ロマ 11:16-21.

ないのです。それゆえ、超自然的にキリストに接ぎ木されなければならないのですが、その手段が信仰です。ペラギウス主義とアルミアン主義は、キリストがすべての人のために死なれたので、キリストによってすべての人が救いの状態にいるのだと主張します。しかしこれは明確な誤りです。

② キリストの死と恩恵は、すべての人に属することではなく、特定な人に制限されます。キリストがご自分の民を救い（マタイ 1:21）、ご自分の教会のために、ご自身の体を奉げられました（エペソ 5:23、25）。その方は、ご自分に従順する者に救いの根源とされます（ヘブル 5:9）。

キリストはご自分の羊のために命を差し出し（ヨハネ 10:11、15）、ご自分の民のために祈られました（ヨハネ 17:9）。その仲保と祈りはいっしょに行くからです（イザヤ 53:12 ; 1ヨハネ 2:1-2）。キリストの死は無駄にはなりません（ガラテヤ 2:21）。しかし、もし、キリストがすべての人のために死なれたのに、信じない者がいるなら、その死は無駄になってしまうでしょう。

③ I テモテ 2 章 4、6 節を見ると「神は、すべての人が救われて、真理を知ることができるのを望んでおられます…………キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。」と語っています。この箇所では、すべての人というのは、各々個人を言及しているのではなく、1-2 節の文脈から、すべての種類の人（その当時の異邦人を含む）を意味するのです。つまり、貧しい者や裕福な者が、何の区別もなく、あらゆる種類の人たちが救われることを意味するのです。まして、救われる人が少ないという言葉は、イエスさまの死が制限された者たちに適用されることを意味します（マタイ 7:14、マタイ 22:14、ルカ 12:32、1ペテロ 3:20）。

一方で、Ⅱペテロ 3 章 9 節での「かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」との御言葉によって反論を提示することもできます。しかしこの聖句は、すべての人が救われることを意味するものではありません。この聖句は、神が忍耐なさる中で、審判を延期しながら、ご自分のすべての選ばれた人々が信仰と悔い改めに至るようになさるという意味です。

④ すべての人が、救われるのでないことを、マタイの福音書 22 章 14 節は次のように語っています「招待される者は多いが、選ばれる者は少ないのです」。また、マタイ 7 章 14 節では「いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです」と語っています。これは、聖霊の御業によって救いの必要性と永遠の命の重要性を悟った者がキリストに出て行くまで、悔い改め、キリストをつかむことが、すべての人に起こることではないことを明確に語っているのです。これは、今日の教会で簡単に信じる風潮 [easy believism](#) が流行し、救いと永遠の命に対する深刻性なしに、キリストの貴重性を悟っていない状態で、ただ、宗教生活をする者たちに、自分たちの救いがまことであるのかについて点検させてくれます。

⑤ キリストの死は、すべての世のために十分ですが、すべての人が救いを得るのではなく、ただキリストに出て来てひれ伏し、キリストを信じる者が救いを得られます。ヨハネの福音書 3 章 36 節では、「御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる」と語っています。

キリストの大祭司的、仲保の祈りにも、この原理がもう一度、明確に現われ

ます。ヨハネの福音書 17 章 9 節では「わたしは彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものであるからです」と語っています。従ってキリストの犠牲は選ばれた者のためのです。

⑥ このように特定な者たちが救われるのに、それは、神が定められた手段、つまり、信仰によって起こることです。信仰は、人間自らの力で勝ち取るものではありません。そうだとすれば、信仰もまた、もう一つの条件になるでしょう。信仰は神によって与えられます。信仰は、人間の意志の中に、その信仰自体の根拠を持っていません。これは、聖霊さまが人間の霊魂の中で働かれた結果です。聖霊の御業によって召された罪人の意志が、キリストを受け入れることで屈服されるのです。

このように聖霊の御業によって発祥された信仰によって、キリストに接ぎ木され (ロマ 11:17)、キリストの中にある恩恵を味わうようになります。罪が赦され、義と認められ、永遠の命を得ます。まだ、新生していない自然な人は、このようなことを理解することができません (1 コリント 2:14)。

⑦ そうだとすれば、信仰は、何もないところから発祥できるのか、そうではありません。主が選んだ民に、信仰を与えるために用意した恵みの手段がありますが、それは即ち、御言葉を聞くようにされることです。そして、その御言葉の上に聖霊さまが御業を行うのです。従って、自分自身を、神の御言葉に対して無知な状態のまま放置させるなら、それは霊的にとても危険な状態にいることです。そして、自分自身の救いについて深刻に考えもしないのも、同じように危険です。さらに神の救いの恵みを受けられる方便の下にいなながらも、そ

れを無視して軽く軽視することも、やはり自分を危険な状態に陥れることです。

あるいは、聖書的な根拠もなく誤解と偽りの中にいながら、自分には信仰があつて、自分は救われていると思う場合もありますが、これもやはり霊的に危険な状態です。これは、自らを騙していることです。従って自分自身を省みて自己点検をすべきです。果たして自分には救いの恵みがあるのかを、自らを点検しなければなりません（Ⅱコリント 13:5）。

質問 21. まことの信仰とは何ですか。

答え I まことの信仰とは、神が御言葉において、私たちに啓示されたことすべてが真実であることを知って信じるだけでなく、⁰¹ 聖霊が福音を持って、私たちの心に働かれた結果として発祥された確信です。⁰² これは、私自身に、⁰³ だけでなく、他の人にも与えることですが、神はただ、恵みによって、キリストの恩徳を根拠にして、⁰⁴ 値なしにくださる罪の赦しと永遠の義と救いに対する確信で⁰⁵ この信仰は、聖霊が福音を通して私の心の中にみわざを行った結果です。⁰⁶

① まことの信仰とは、真理に対する知識を持つこと以上です。それに対する

01 ヨハネ 17:3、17、へブル 11:1-3、ヤコブ 2:19.

02 ロマ 4:18-21、5:1、10:10、へブル 4:16.

03 ガラテヤ 2:20.

04 ロマ 3:20-26、ガラテヤ 2:16、エペソ 2:8-10.

05 ロマ 1:17、へブル 10:10.

06 使徒 16:24、ロマ 1:16、10:17、1 コリント 1:21.

確信まで含めています。なぜなら、神が、真理を啓示なさったからです。従って、まことの信仰とは、私たちに啓示されたことを受け入れる知識と確信によって、神に対する個人的な降伏と信頼を含んでいます。私たちが神を信じるといふ時は、必ず、先に神に対する正しい知識が必要です。

しかし、私たちが何によって神を知ることができますか。それは、神が、ご自身を啓示してくださったからです。従って、ご自身を啓示している神の御言葉を研究すべきです。しかし、神の御言葉は人間の理解だけでは悟ることができません。聖霊の御業がなくてはなりません (1 コリント 2:14)。私たちは聖霊の証しを通して、神の御言葉が真理であることを確信するようになります。従って、まことの信仰は、知識と確信とを持っていることです。

② このように聖霊さまは、救いの知識と体験を与えて、救いの確実性を見せられ確信を持つようになさいます。この時に私たちは、神の御言葉に啓示されている実際的な証拠を受け入れます (ヨハネ 3:33)。これは、理解の確信 (コロサイ 2:2) であり、真理の認め (II テモテ 2:15) です。今から、私たちの霊魂は、目に見えないものに対する確信を持ちます。それゆえ福音は、言葉だけによらず、聖霊の確信によることです (1 テサロニケ 1:5)。

まことの信仰とは、神が、ご自分の契約の民に約束されていることを、自分に適用することです。その中で、確信を持つようになり、全的に信頼するようになります。つまり、神が約束なさったことについて全的に信頼することです。ちょうど、アブラハムが約束を信頼し、疑わずに、神が全能の力によってその約束を移行されることを信じたことと同じです。

③ 従って、まことの信仰のためには、根本的な真理を知っていなければな

りません。すべての聖徒は、根本的な真理を知って理解するだけでなく、神の照明の光によって悟れます。主が御言葉と聖霊を通して靈魂に、有効に浸透して強力に説得させることで信じられるのです（ルカ 1:38）。それから聖徒は、神とキリストを見るようになります。自分を神の義に屈服させ（ロマ 10:3）、ついに、キリストの手をしっかりとつかむのです（Ⅱ歴代 30:8）。それによってキリストに結合され、罪の赦しを経験するようになります。この時、その心霊は確信に満ち、救いの確信を得るのです（エペソ 3:12、1テモテ 1:1、Ⅱテモテ 1:12）。そして、キリストの心と一致を求め変化され、キリストを愛するようになります（Ⅱコリント 4:6、詩 36:9、Ⅱコリント 3:18、ヘブル 11:27）。しかし知識が不足して、無知であるなら、その信仰は、盲目的信仰になるでしょうし、それは、すべての悪な行為の根源となります（Ⅱコリント 2:7、8、エペソ 4:18、Ⅱテサロニケ 1:8、イザヤ 27:11）。

④ ただ、まことの信仰だけが、私たちを、キリストと結合するようにさせるので、まことの信仰の性質について知ることです。まことの信仰とは、義とされる信仰、あるいは、救いの信仰とも言われ（1テモテ 1:5）選ばれた人々の信仰（テトス 1:1）とも呼びます。ここで、まことの信仰は、偽り信仰とははっきり区別されます。

ただ、歴史的事実に対して認めることで終わる、歴史的信仰があります。神的真理は認めるが、救いを渴望したり、切に求めないのなら、真理と聖霊による説得がない場合です（使徒 26:27）。このような信仰を公論の信仰、あるいは、単純同意の信仰とも言います。

また、一時的信仰もあります。真理について同意はするが、真理に続けて留まらず途中で放棄する信仰です。特に、真理のゆえに困難が来たときは放棄す

る場合がここに該当されます(ルカ 8:13、ヨハネ 6:66、ヘブル 6:4-6)。このように、間違っている信仰と、まことの救いの信仰とは異なります(マタイ 13:23、ルカ 8:15)。

一方では、神の御言葉に根拠せずに、ただ想像力や、表面的で、間違った幻的な体験をもって、それを根拠にして信じる場合もあります。これを幻的、あるいは、想像的信仰と呼びますが、これは救いを得る信仰ではありません。これは、自分を自ら騙す信仰です(マタイ 7:21-23、Ⅱテモテ 3:5, 4:3-4)。

最後に、奇跡の信仰があります。これは賜物的なものとして奇跡を体験することです。しかしそのように奇跡を体験し、行ったとしても、まことの信仰を所有することができないこともあります(マタイ 7:22、1 コリント 13:2)。悔い改めと従順がない場合です。従って、必ず、救いの信仰と偽りの信仰は明確に区別されるべきで、分別できなければなりません。

⑤ まことの信仰とは、赦しと救いのためにキリストをつかむことです。この信仰こそ、私たちがキリストに接ぎ木させ、その方に結合されるようにします。ここで、接ぎ木される御業は受動的なものです。神が何かを行われたからであって、私たちが何かをしたからではないです。私たち自らは、キリストの一部にもなり得ないです。聖霊さまがそのように行われたのです。私たちがキリストに接ぎ木されることで、キリストの中にあるすべての恩徳を味わうようになります。赦しの恵みは勿論で、義と認められ、神との和解ももたらされます。

⑥ しかし、今日、この時代に一番大きく流行っている間違った信仰の形態がありますが、それは、新生していない状態で、人間の意志をもってキリストを信じると決心するのを、信仰と見なすことです。この場合は、信仰が人間自身から出てくると思っていることです。これは、聖書から遠く離れた教えなのに

も関わらず、今日教会で簡単に発見することができます。

また、もう一つの間違った信仰とは、教会で、真理だと言っていることを受け入れるのが信仰だと見ることです。このようなことは盲目的信仰と呼ばれますが、自分を騙し、無知の中に放置させることによってとても危険なことです。これは、ローマカトリック教会で軽く見られる現象です。

質問 22. それでは、キリスト者が信じるために必要なのは何ですか。

答え I 福音のうちに、すべてが私たちに約束されています。⁰¹それは、キリスト者の信仰に対する箇条として要約されていて、宇宙的で、疑いの余地がないものです。

質問 23. 信仰に対する箇条とは何ですか。

答え I 使徒信条です。

① まことの信仰とは、福音の約束が基礎となっています。そして、それは信仰の客体であり内容です（使徒 24:14、ヨハネ 3:33）。福音はただ、信仰の規範です

01 マタイ 28:19、ヨハネ 20:30-31.

(イザヤ 30:21、申 28:14)。使徒信条は、聖書と同等な位置に置くことはできないが、聖書に含まれている救いの教理に対する要約として重要な位置にあります。

② 使徒信条は、キリスト者たちの信仰に対する要約です。何よりも使徒信条の各箇条は、神の約束について語っています(ロマ 10:9-10)。たとえば、使徒信条で「ポンテオ・ピラトによって苦しみを受け」という項目を告白する時、あなたは、キリストの苦難を記憶するでしょう、神が、あなたのためにキリストが苦難を受けるようにされたという、約束を信じるようになるのです。

また「十字架につけられ」という項目では、あなたの罪のためにイエス・キリストが代価を支払ったということを覚えるとき、信仰がさらに確たるものになるでしょう。このように使徒信条の箇条は、あなたの救いのために与えられた約束に関することです。それで、あなたは「信じます」と告白しなければならないのです。

③ 使徒信条は宇宙的で、すべての時代に、すべての教会に適用されます。使徒信条は新しいものではありません。それは使徒たちが告白し、教えられた古い信仰告白書です。これは真実で、疑うことのできないキリスト者の信仰の箇条です。使徒信条は、教会による疑いのないものです。なぜなら、使徒たちによって作成されたからではなく、三位一体・神に対する告白からはじめ、キリストの啓示に根拠しているからです。

④ そうだとすれば、聖書にある真理を、このように要約しても良いのかという質問が出てきます。それは、神の御言葉が教会に与えられ、それで教会は聖

書の真理を要約して、この世に提示しなければならないから可能だと答えられます (1 テモテ 3:15)。しかし使徒信条は、聖書と同一な権威を持っているわけではありません。聖書の権威に付属されます。聖書が一次的権威をもっていて、使徒信条は聖書から導出された権威を持っているのです。

使徒信条は、信仰の真理と、教会の教理に対する公的証拠 [public testimony](#) の機能を持っています。来る次の世代のために真理を保存する機能と、偽りと異端に対して、真理を保存して聖徒の連合を維持させる機能を持っています。従って、使徒信条に対する告白のよしあしを通して、正統なのか、そうでないのかを分別できます。使徒信条の箇条において、離脱し反対するなら、それは正統ではありません。

⑤ 使徒信条は、まことの信仰と教会の教理について、公的な証拠機能をしていて、来る次の世代のために真理を保全する役割をします。そして、間違っている偽りを分別して、それを退治する機能を遂行します。また、信者たちの結合を現わし、保存の役割も遂行します。